

令和2年8月6日（木）

## 「キッズステーション班の活動をしました」

8月4日（火）から8月5日（水）にかけて、復興研究会のキッズステーション班が活動を行いました。今回は、小学生の預かり施設「ぽこあぽこ」、大槌学園の小学生が学園で学習を行う「夏休み子ども遊びの場」、子どもの放課後の居場所づくりとして機能している「OLAI」の3か所で行われました。



「ぽこあぽこ」では、小学生の宿題の手伝いをしたり、低学年の生徒の遊び相手をしたりと様々な活動を行いました。東京大学の先生の出前講座もあり、一緒に聞いて学んでいました。

「夏休み子ども学びの場」では、2日間にわたって小学校3年生から小学校6年生までの児童の勉強をサポートしました。算数の問題を図で解説したり、時には小学生の話し相手になったり、鬼ごっこをしたりと、頭と体をフルに動かした2日間でした。5日には、高校生が提案し、「絵しりとり」をして遊びました。



一方、「OLAI」では、小学生たちの遊び相手になりました。この日の最高気温は31度。快晴で日差しもとても強い中、水鉄砲で遊んだり、プールに浸かってみたり、水風船で遊んだり、小学生たちと水遊びを一緒にしました。



また、上記の3か所では、「防災紙芝居」の読み聞かせも行いました。今回は「あなたなら、こんなときどうする」という題の紙芝居です。テレビを見ていた時に緊急地震速報が鳴ったらどうする？エレベーターの中で地震が起こったらどうする？など、クイズ形式で防災について学べる紙芝居を披露しました。また、地震が起こったときに身を守る「ダンゴムシのポーズ」も子どもたちと一緒に行いました。

今回は、施設の近所にある津波避難誘導表示の情報の読み取り方や、実際に地震が起こった際にとるべき行動も小学生たちと確認しました。小学生も、近所でよく見かける標識の意味について、真剣に学んでいました。



次回のキッズステーションは、冬休みを利用して行う予定です。